

第1回 コーポレート・ガバナンス研究会 概要

社団法人 日本証券投資顧問業協会

開催日時・出席者

- 日時： 平成23年10月27日(木) 12:00—14:00
- 場所： 社団法人日本証券投資顧問業協会
(日本橋茅場町・東京証券会館7階)会議室
- 参加者：
 - ゲスト・スピーカー
加藤丈夫氏 富士電機株式会社 元会長
 - 研究会メンバー
池尾和人 慶應義塾大学経済学部 教授(研究会 座長)
上村達男 早稲田大学法学部 教授
湖島知高 一般社団法人日本取締役協会 事務総長
山田俊浩 明治安田アセットマネジメント株式会社
コンプライアンス・リスク管理部長
 - 岩間陽一郎 社団法人日本証券投資顧問業協会 会長
 - オブザーバー
長尾 和彦 社団法人日本証券投資顧問業協会 副会長専務理事

第1回 研究会の概要

① 岩間協会長挨拶

② ゲスト・スピーカー加藤様によるスピーチ（添付資料ご参照）

- ◆ テーマ： 「不確実な時代におけるコーポレート・ガバナンス 経営者の視点」
- ◆ 概要：
 - ・企業経営及びコーポレート・ガバナンスの課題
 - ・課題解決に向けた企業の取組み - 社会構造・経営環境の劇的変化に対するスピーディな対応
 - ・経営執行体制・取締役会機能の見直し - リスク、人材・マネジメントの強化、取締役会の機動的な運営、経営者に対する監視体制の強化、取締役会メンバーの多様化

③ 自由討論における主な発言

- ◆ガバナンスとは：
 - ・ゲット・マネジメントを確保するための仕組み、あり方ではないか。
 - ・経営権や会社支配の正当性をめぐる議論であり、ダメ社長を暴走させずに辞めさせる仕組みであるといえる。換言すれば、辞めさせる仕組みをもっている人たちに信任されているので、社長の経営権の権威は高まる。
- ◆コーポレート・ガバナンスの課題等：
 - ・事業が国際化してきた時に、その事業のガバナンスを世界的な規模でどう構築するかというのは、グローバル企業における新たな課題である。
 - ・これからのガバナンスのあり方は、ステークホルダーに対してどのようにバランスのとれた還元をすることが問題となるのではないか（満足の最大化ではなく、不満の最小化）。
 - ・ステークホルダーに対するバランスのとれた還元について、個人が中心の社会では、個人は従業員、消費者、株主と様々な呼ばれ方をし、欧米的な感覚では、社会の担い手は個人（市民）であるので、個人（市民）を大事にする発想から、労働者保護、消費者保護、株主保護と色々な形で言われる。
 - ・日本の（機関）投資家は、受託者責任を果たすために議決権を行使するという意識をより明確にすべきである。
- ◆取締役会の機動的な運営：
 - ・取締役会の機動的な運営と取締役会メンバーの多様化は両立するのか。
- ◆取締役会メンバーの多様化：
 - ・取締役会メンバーの多様化と彼らに求められる専門性は、取締役会運営上ぶつからないか。